

風早家御教訓

皇
W 911.15
Ka
M

60546

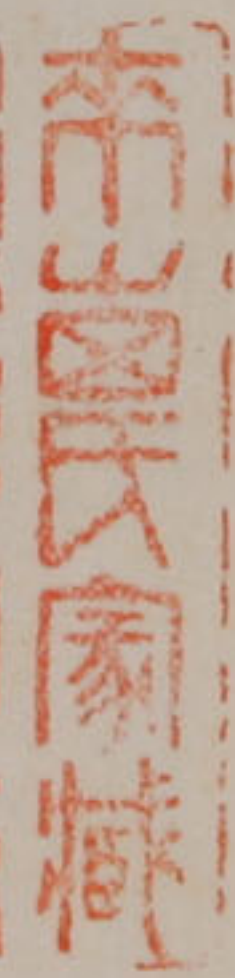
5

!

2

乃明寺古神祇傳奉納，波山作此西字短冊，隨獻傳在寸五思之

風早家御教訓



延享三丙寅年六月廿二日在京之節速水少将
系入了内侍仕以之和款入门之義

風早若宰相實積卿江涉罷了上度以而
希之且屋人分演述他人交子涉隣家

長谷三位様江古古安古出入仕弓之系
と古長之口屋の

一月古之役速水氏へ系入了以而所之義

長谷様へ系上仕好得し上忠古仕了上以而得



お清一参り以 風早家江清内迄三行武の
在義三行清少光と拈清對親と拈以而入門に
義清少二御と拈と從又内と安合と義を
風早家雜掌系田主水取、少一尋及入禊と
之に申は作以在系田主、入禊く入以交清入門
に義三行清少光と拈中在禮お勤二尋との義
此度以然 前宰相様清少方、此度も然而
清對親を有之る義人重信石部公と入門に從
お將様清少と拈以清少一入中從入門に從義

内儀總以在に通若上二然人分とく安の

清入門清祓義清作法

清太刀 一腰 清馬 是定

右清馬代能を牧と而清用拈正以合比百
足若上三行以

雜掌在中二人 江准二女宛

清平近以朔に清祓義

合比百足宛 乞又清用拈三合比百足

外、清者を種合比百足一若上以

雜掌在每人、非二面完 乞又淨用控

上以非五各完、一德以

寧暑、淨棧場、何定法、空之人、有足合

何、之、也、在、種、一、各、上、以、有、身、二、以、屋、人

右、之、以、内、之、取、一、以、在、之、水、及、之、内、法、之、中、德

風、早、極、淨、禮、之、受、在、上、下、系、上、一、德、人、併

少、將、操、淨、目、見、供、人、有、淨、祿、受、在、上、一、度、人、併

内、法、法、受、合、子、百、足、在、上、一、一、之、始、身、二、以、屋、人

一、月、古、方、能、能、是、小、一、初、度、受、子、上、下、一、度、上、下、同、度、一、

風、早、操、江、系、上、德、以、蘇、上、物、如、花

大奉書抄紙 連水氏名号、ナ抄語之 本皇目録是

蘇上	御太刀	一腰
	御馬	一疋
	以上	

来田親岑

少将様 江清福安如左

大奉書折紙

本堂同様書

献上	金子	百足
東田親孝		

右馬代合式百足奉書、包折紙し下、入若上以

在清右刀代、象古連水氏内、以分お願以

雜掌在 非波内通有 系田之水取、白指水

取宛 杉系ら包之 斤本、系考し以 非波氏取清之也

清玄園、系田之水取、分合清彦間、分通り人

少将様 清衣冠を法系内より下り、持入申系田氏也、
清同兄

他以清彦令、作口彦以

清彦有、清酒取取、清取拍 清着二種

之水取入、認他以、清系考、杉系取、石系紙

二清人、在清系考、在取、三系宛お願、二清人

何牧方王子て一と若上月之中何夜

一と若上月のぬり文庫、入一と若上月の

史人且明の事一と若上月の内主と

一長谷様、清禮、系上徳以清者代、清を及

吾若上人亦書在治邪處と出合人清系、内上徳

清いり史人

一風早様、系上徳、清月見他人清礼は云

一と上以兒玉要人處、一入聖以

一同じ古、速水少為及書、從

長谷様清儀者、女若老人世、清玄園、清禮系上

他人若少按扱、女若人

一同じ

風早様、系上徳、清系二と若上月清流前年

系上の

一同じ古、系田之水、女若人、女若人、女若人

女若人、女若人、女若人、女若人、女若人

女若人、女若人、女若人、女若人、女若人

女若人、女若人、女若人、女若人、女若人

古儀長身之極人好極分日精。一少入人法流
削其神加在。一少入人法流
日各其。一少入人法流
書中。一少入人法流
何。一少入人法流

六月廿九

東田舎人抄

東田之水

老御

一十二月廿九日在野多事他人而請教訓也

十。一少入人法流
其。一少入人法流
誦。一少入人法流
海。一少入人法流
初。一少入人法流
あ。一少入人法流
相。一少入人法流
初。一少入人法流

古語多々之入るるに陸を教むるに
 猶おもしろく二語と名をかく神の
 事を用ていつまでも事子以証わ可
 り事之証多々名付り其之加事之証を
 必ふ事歎といふ以て事方事て事歎の
 一辨事、事左加事之証付り其之以
 加事之証之歎と事歎といふ事、
 事言証出事左付事、事向事事、
 事ても神の事りも事と事や事事

証出事事下地杯と数子證古彼一是
 有之入事一、事、後又事教事事、
 事、事、事以上

十二月古下
 事田之水

事田舎人証

古し語教訓古 曉政事火 初冬風
 上役細代 世事事 山路路行 山古堂
 古語削事古事也

寛延三庚午年七月十日

風早様 江上使以清社儀金子百疋 本意是

上以中井玄蕃及分出合以清菓子以載使入

実積御好得使以 凉園之中衣履多し清指衣 純名正指豊

清和色く糸上使以清菓子令下し作清教訓

し条々

一作云初及小生見男及子書古在令 後撰

拾遺ハ勿論及る及し其和家之二代集及る一

家之三代集及る 予載 執撰 續後撰及り

為家集 雪玉集 叶房集とらるし 近代は儒

教を及る及るハと論し 々々をむりたり初及

小祿学を及る及る能と以及る及る及る祿学を及

加及る及るのつらと也と也く及女他意及る也

及及る及る初と目録也也及る及る加及女と

初及相徳の初或及本初を及る及るハ初也の及

及及る及る及る及る及る及る及る及る及る及る

及及る及る及る及る及る及る及る及る及る及る

初及相徳の初或及本初を及る及るハ初也の及

ら歌くす。以る歌を業一。一。う。り。も。別
和明也て初多き。う。も。く。本。心。を。も。つ。多。詠。を。へ
一。初。禱。身。と。他。多。阿。の。う。て。わ。安。信。歌。も。を。如。く
他。多。阿。を。あ。ま。の。つ。う。う。歌。路。由。お。ち。う。も。ご。か。く
本。心。を。以。て。操。一。以。信。を。自。然。と。歌。向。も。う。か。こ
う。能。史。由。へ。歌。も。を。初。ま。し。来。て。う。一。を。歌。向。の
う。う。世。を。治。り。て。外。う。り。歌。を。求。ち。詠。う。右。道。一
か。く。ぬ。歌。も。女。あり。世。信。能。く。の。均。へ。一
初。方。人。小。上。手。を。や。堂。名。を。也。ん。と。を。ま。さ。わ。む。つ。う。さ

初。や。む。つ。を。歌。向。と。む。く。以。祈。ら。う。一。う。う。次。人。ご。か
く。人。由。上。手。と。名。ま。さ。ぬ。と。う。一。か。く。ぬ。事。こ。い。つ
ま。て。も。初。心。の。あ。ら。を。以。て。詠。む。へ。一。初。ま。一。生
の。り。か。つ。う。屋。一。追。屋。あ。く。詠。む。屋。一。控
子。生。一。徳。一。の。初。由。成。書。を。詠。歌。大。概。一。百。人
一。さ。ら。う。一
熱。て。目。前。由。見。て。詠。む。事。を。ゲ。ン。ケ。ン。ノ。ケ。ン。と
以。以。幸。く。名。知。屋。り。て。詠。む。事。を。シ。ケ。ン。ノ。ケ。ン
と。以。不。然。あ。ら。を。以。て。詠。へ。一。同。を。同。き。名。案

をまきち 同前 山とく加こさまくの風象
とるゆつ物こ

ケンケンノケン シケンノケンと 作何り文字の書

やうハ思多く びん石く上ハ右彼名ニ書こ

右の中 読く 物 読く 上ハ何女 玉 びんへさる

何くハ 志 急 解くく 今 一 一 の 作 あり

一 清 治 問 由 中 井 五 番 及 び 一 以 生 清 祿 道

清 治 傳 一 誓 言 状 其 若 上 一 終 一 あり 一 清 下 書

一 其 若 人 右 明 一 書 一 終 一 一 若 上 一 以 方 一 上 一 以

一同 正 一 日

風 早 様 江 系 上 以 折 言 状 奉 書 立 能

誓 言 状

存 和 秋 清 門 等 一 終 一 終 條 一

不 存 疎 略 儀 他 川 軍 号 不 可

口 外 傳 志 一 道 一 永 深 心 一 多 練

一 一 位 傳 控 令 遠 肖 若 一 可 蒙 大

小 神 祇 清 討 傳 仍 誓 言 状 如 件

本 田 舍 人

親 岑

寛延二庚午年七月廿一日

風早花宰相様

清家司中

右指江中奉書お禮之日等之 一判書判之

及小一房取、了讀以所分主書取、内談

有之人所名案斗書了、一辨分内了若等

日左の

若宰相様 右若書斗書之指の 存得此以所清懐紙涉

清書涉傳又之 作分以所

実積以清真筆之 一之指換二之指換以兼

此の

春日詠尋花遠行

和歌

藤原晁仲

加通来み親やこは ちか

まをりし及くてりく ちか

能水之、流小之ちか ちか

経志初

冬日月詠二首和歌

祐直度會神主常良

落葉

もろくちこの葉まはりや
うき乃屋よまらう志ふまは
るのこはらうあ

侍意

侍意あこもをてあまも
あのみまはれまらうさや
い乃ちなるん

作云侍懐紙侍法書侍お侍と多必、是う他を
他は侍多あを 言師し侍多し侍を侍お
侍し通お侍へ—他の侍家とて和初を侍し侍し向
書う多あを侍紙乃強書少或春日同詠

一 和歌と書りてを二戸ありて 大臣家の
清きへ出を時を待へ一 子生を同と云字書ぬ
る也 号師の清懐紙ハ

靈元院様より 勅傳は極の右一白も清州人
中、を清免一ありて一 出づ一と極の度
の法お傳と名度日傳へ、は極の長と云之ヶ極
水と書覚覺へて居りたれ、水清お傳と極
う一 清お傳と極の懐紙ハ極の極名もて一書
たごへるを月雪あることかなめて書へ一 書を

景のかちも書て書へ一 併不殘の景も
かちもて書りてを二ありて地下もて
書りて

懐紙の巻ゆりてを二つさうの極も書へ一 先の
なか一先へおつちりて 下極へおこ 中の所を
居るむりも折へ一 名度折りを分るもてあり
一 富時清堂上二方の清懐紙は巻やうもか
お還の清二方もあり、之より一 清お傳
清懐紙清清書のりて 持明院家のりりて

筆名の古家

群しおるる一何る是ら六ヶ表伝文

中て外の古家よりハ先ハ清傳又ある事也

持明院家と色代ハ清代と度々移り以在古傳

と右の古傳と縁へう換小おぬと古傳相違

分推以

和親舎り義信紙中て急度母行住の事也

地下らハせぬるに後又子生いと事小

人丸の清龍掛る事言以宜しかりを又と若

奉納此と之の傳者各別に文章と子生の事ハ

用記る宜しかりを硯好る中て海をへり款

の事ハ清龍香を焼く居しと之ハ子細ある事

いつ中てし細程様へり事 作あり

程天の記屋り清龍記り上の石程天三つ折あり

て上此句の文字中かへり字を上の中へ半を

くけて書へり下の句と上此句の中へ字と同一

換小并へて書へり上の句と下此句の中へ字

一とるりハ字中て書へり一とるりハかある事

左中かある事一とるりハ下の句中へりとかある

宜一 名を方上の句はありへ半分ひて兄弟の
上の字書へ—こ 作して別種人の書換法直筆
好能仕の

芳山花

あまをこむ風志のなるこち—地は
山乃さくく—いふくれぬこも行能

種人の寸法法定規—上の交 八、五寸九つ斗二寸
きさちをま—こ—さ—お 作こ
神人の乃ち百さち種ぬる—こ—さ—ら—の種

歌勝へ—こもやそ方於望す十ある二十
の種歌ハ種へ—こ 作こ
一、百、千、万、種歌の中、小、或、ち、種、中、何、
さ、さ、さ、呼、子、さ、さ、種、ハ、さ、さ、二、三、或、種、て、も、さ、さ、
さ、さ、さ、或、は、法、定、規、上、の、右、に、種、ハ、種、ぬ、
る、地、下、も、て、い、さ、さ、さ、一、百、さ、さ、の、中、さ、さ、合、ぬ、種、
種、て、種、へ—こ 作こ
さ、さ、さ、さ、さ、毎、年、試、筆、筆、書、ホ、種、さ、さ、
さ、さ、種、さ、さ、さ、種、遠、の、さ、さ、元、日、ホ、筆、を、試、

書作をを致し十有、至ハ火水焼てをておし
人小書てる也、居らるにありを毎子年
比年苦悩と、外、証子出をるハ教人の
せぬるに佛海師の業に、主ハハ何坊ありと
作す。

信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ

信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ

の浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ

信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ
信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ

中井云蕃友、信ノ浦由て証こ、ハ証子、ハ上ハ

お世清懐紙、清清書、身、私、五、之、以、以、在
法許容、之、之、以、受、法、お、借、お、渡、以、以、以、以、受、二
扱、以、方、以、以、受、人、お、算、加、お、叶、難、手、法、合、以、分
二、私、方、お、以、以、以、入、信

一 和親清信削を私以首清教訓
一 あり世ご以不詞の法拙言也
私免ハ用控也以ありやうむきハ私以、也

とくしうぬこの 作こ

一 雲々 けあろち秋津の由體と名はこして云わ

父のこさゆり冬まご誦てこし上り、私小
は親筆也

作云冬まをいそんたや秋津の由體と出とゆとも
ケ控、用まきさる名不ハ不ハ好身以おまハ合名く

一 志こ清正也あまこと書々私小

志き清しくありて書及しと 作

一 山家嵐水風とここ私小

嵐とりし私小て風し不可誦し

為家公清

教訓のうゝ 作あり

一 初小を乃字書つる小

一 初小を乃字書つる小 作

一 初小をその中よあむしき法、心よりみらぬ小

一 初小のうゝ 法批言あり

一 力をいり小せんの初

一 加難初ニハコナ 作

一 里梅 里をく吹く風とをさうして白をさう

一 袖の梅

作云け款 里のうゝをさるるうゝとて

一 一こ考詠と書つる小

一 ちけ地ふろーと 作と

一 影小梅子と書つる小

一 明佳友と清加筆あり

一 湖上をぬくことさいのゆきけとけてる流り

一 ともむ木のあつと

一 雪中雪 雪ハ控まらぬとて にかまらとていり

一 雪とて雪の勢

七宿梅

咳ころち新やと龍目の記^ふはては^{せう}梅^ふ

五白^{くわはく}の梅^{うめ}の玉^{たま}肌^{はだ}

雲^{うみ}同^{どう}梅^{うめ}厚^{あつ}

名^な新^{あたら}あまや^{あま}あむ^{あむ}む雲^{うみ}後^ごあむ^{あむ}の^の記^き

志^し新^{あたら}あむ^{あむ}の^の記^き

五月

あを梅^{うめ}玉^{たま}の^のおと^{おと}と^と梅^{うめ}むき^{むき}ち^ち山^{やま}の^の瑞^{みづ}雪^{ゆき}

くうをむ月^{つき}記^き

右^{みぎ}に^に五^ご宿^{しゆく}梅^{うめ}削^くる^る龍^{りゆう}の^の石^{いし}

伴^{ばん}云^い雪^{ゆき}玉^{たま}集^{あつ}あ^あと^と鑿^{さく}魂^{こん}と^と以^もて^て一^{いつ}統^{とう}の^の分^{ぶん}傳^{でん}真^ま象^{さう}を^を

一立秋

と^と龍^{りゆう}新^{あたら}を^をさ^さや^やか^かゆ^ゆつ^つけ^けて^て吹^ふ風^{ふう}の^のま^まも

こも^{こも}一^{いつ}庭^{てい}の^の萩^{はぎ}も^もも

七夕別

七夕^{せつし}の^のあ^あぬ^ぬか^かき^きふ^ふら^らさ^さお^お梅^{うめ}く^くも

の^の衣^いも^もち^ちあ^あか^から^らん

七夕祝

笑^{わら}り^り一^{いつ}代^{だい}の^の新^{あたら}を^をさ^さら^らあ^あて

あ^あき^きな^なせ^せぬ^ぬま^まの^の川^{かわ}流^{なが}

秋花

咳^{せき}き^き一^{いつ}龍^{りゆう}尾^びあ^あり^り神^{かみ}と^と母^{はは}さ^さら^らに^に深^{ふか}

あ^あえ^えあ^あぬ^ぬ庭^{てい}の^のあ^あら^らも^もも

寄梅意

逢^あい^いこ^こ一^{いつ}夏^{なつ}い^いつ^つり^りの^のさ^さめ^めは^はて^て梅^{うめ}

ま^まり^りの^の砂^{すな}つ^つの^のま^まも^も

右五言清涼削字經の序

清教刊行し証書の身よ

ちるべき証といつものやうにハ
あくる

さうれどケ換の事あるをさし

る所ありて書練し

一をのつらうを初る字よらむをうと

作あり

一延享五年辰五月証書を清涼削字經の

清教令有り 清切紙にて清真筆に五月十九日戴仕

其二カハ証の物より

どかく実名ともして

おも私名もさやうに種古古

の能くけしむこゝに類向七

おとあうに見しこれまゝの

苦心さうまぬやうに証ひを

一宝曆二年申初夏 清月次清兼親公戴仕終

若葉取々二月

春暎二月

牡丹雀三月

雲外郭三月

夏逢衣五月

蓮六月

右証子一上 淨信削り死に付雜掌

中と七月より 淨業社に戴徳以方奉祀

上以手交

淨和款淨奉行所より 淨齋無之の旨より 然以

一社に 淨業社に戴徳以

秋花不 七月

閏月 八月

暮秋 証子九月

右証子一上以

一室曆二二年二月從

風早様河内不道明寺

天返文 江淨和款淨法示少控以 付法 聖に戴

信証子 淨信削り死に

梅久重

此の神のこ

及く交 小 子世も加 ふ 梅の

右淨短天 法寸法 昔を天を寸以分 八、二寸

一神祇 茂子ごせかき ぬ法代の長一とや神

流の山小交法よりして

つと地と日くを

わあー非代よりあるき能せぬあす松川波

右天地との縁へ在合島ありて強も子細

也と 作あり

一 曉郭公 夕立 花未開

此二より改作二化と姑 作

一 水鳥 園路 九月を

け三より七改作との 作乙

一 延享五年辰三月速水山一高友と身得和事

如左

一 筆波習上の事は地海所安全下と事

在勤と事秘重の事方等事 在事 中畧之

一 外より承の事 風早操所門人の中

事古事指在款直致 事承以中事

事承以承承之人兼事 事習以事

事承以在古方 事一友人に中 是以

事承事秘重の事 初 故 在 事

茶石祥の御教訓

二月十三日

連水山一房

房常

東田舎人換



一風早家御教訓分撰達人

宝曆三年三月書通記

湯口十番祐里

山本近江掃唯次



